

全科協ニュース

平成2年3月1日発行
(通巻第112号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園

国立科学博物館内

〒110

Tel. 03-822-0111 (大代)

Fax. 03-824-3298

おもな内容

◇ 全科協北米科学系博物館視察研修報告〔1〕

山 本 孝

◇ 加盟館園の紹介

◇ 全科協 北から南から

全科協主催北米科学系博物館視察研修を顧みて

国立科学博物館 庶務部長

山 本 孝

このたび、全科協主催の北米科学系博物館視察研修に参加する機会を得て、平成元年12月6日から12月19日までの14日間、アメリカ・カナダの博物館など10数か所を視察してきた。

この研修も回を重ね、今回で6回目、参加者も23名という大所帯の編成となった。過去、前回までの参加者の方々から、視察報告が本紙面に紹介されて、毎回大きな成果を得たことが報告されているが、今回参加してそのことの実感を得た。

ここでは、今回の視察団の出発準備から帰国までの概要をまとめてみた。

出発までの準備

今回の参加者はさきにふれたように総勢23名で、団員の構成は、博物館に所属する方が私を含めて11名、展示関係の会社に所属する方12名で、全員男性、59才から28才までの平均年齢42才という熱気に溢れるチームとなった。旅行代理店から大久保忠氏が添乗することとなった。

出発に先立ち事前打合せ会を開き、次の事を確認して出発の準備をすることにした。

①日程・コースは、12月6日に出発し、ニューヨーク(3日)、ワシントン(3日)、トロント(2日)、デンバー(1日)、サンフランシスコ(4日)の5つの都市をめぐる、12月19日に帰国する。

②視察する博物館などは、アメリカ自然史博物館(ニューヨーク)、メトロポリタン美術館(同)、国立航空宇宙博物館(ワシントン)、国立アメリカ歴史博物館(同)、国立自然史博物館(同)、王立オンタリオ博物館(トロント)、オンタリオ科学センター(同)、デンバー自然史

博物館(デンバー)、エキスポラトリウム(サンフランシスコ)、カリフォルニア科学アカデミー(同)の10館とする。

③視察の仕方は、1つの館を1日又は半日単位に十分時間をかけ「展示を見る」ことに主眼をおく。したがって館の概要説明は30分程度にとどめて頂き、視察のあと質疑応答や話し合いの時間を設けてもらうことで、訪問館に願う。

④市内視察は可能な限り実施するが、主要なところだけあらかじめ選定しておき、あとは現地の事情によって対応する。

⑤現地での生活上の情報、例えば気候、持ち物、小遣い、治安等々、重要な問題であり、これらについては旅行代理店からの最新情報や経験者などから助言を得ることにして準備をすることにした。事前打ち合わせ会に出席できなかった方には、結果を連絡し、出発にそなえてもらうことにした。

出 発

12月6日午後2時、成田国際空港に集合。結団式のあと旅行代理店の担当者から、出入国の手続など説明をうけて、サンフランシスコ経由でニューヨークに向け出発した。およそ9時間の飛行の後、サンフランシスコに到着したのは、時差の関係で成田を出発した日の午前8時40分。「得をした」「長い1日になる」などいろいろなことを言いながら入国審査や税関検査を終え、「無事アメリカへ入国した」という、ほっとした表情で集ってくる。しばらくして移動のため人員確認をしたところ2名いない。手分けして探しているうちに現れたふたり、なんと団を代表して(?)入念な荷物検査を受けていたの

である。皆からひやかしをまじえた同情の声が掛かることしきりで、ふたりの方には気の毒であったが、これをきっかけにお互いに親近感が湧き、団の雰囲気も一気に和やかになった。

さる10月17日にこの地をおそったサンフランシスコ大地震の影響は、空港内施設で見る限り国内線ロビーの天井が落下したままになっている程度であった。

乗り継ぎのため4時間ほど空港内で過ごし、ニューヨークに向けて出発。約5時間の飛行の後、午後9時過ぎニュージャージー州のニューワーク空港に到着。冷雨の中バスでニューヨーク市内のホテルに向かう。車中でガイドから、ニューヨークの治安の悪さを、最近横行している「ボトルマン」なる悪質なたかりの例などを挙げて注意をうけたので、睡眠不足で朦朧としていたところに緊張が漲る。余談ではあるが、このボトルマンの話はわが団員に後に役立ち、事なきを得た。

第1日目は長時間の飛行機の旅でどうしても睡眠不足になりがちである。目的地に着いてすぐ視察と言う日程よりも、夜間に着いてゆっくり寝み、翌日からすっきりした気分で視察できた今回の日程は、健康的でよかったと思う。

博物館視察

博物館の視察は、全科協事務局からの事前連絡のおかげで、どの館も好意的に受け入れて頂き、展示視察をはじめ概要説明や質疑・話し合いにも親切に応じて頂き、満足のいく視察ができた。視察の仕方も事前に決めたとおり、展示を見ることに十分時間をかけ、しかも各自の視点を尊重して一定時間内を自由視察としたため、そのあとの質疑の時間はかなり活発なものであった。また最近出張された方から、事前に貴重な資料や助言が得られたことも大変参考になった。特に各館の平面図は、時間の無駄を省き効率的な視察をするうえに大いに役立った。

ここではトロントの2つの博物館について紹介することとし、他の博物館については、最近本紙面に詳しい報告がなされているので省略させて頂く。

オンタリオ科学センター

トロント市郊外のロン川上流に位置し、自然の地形(谷の傾斜地)を生かして建設されたもので、地形の上部と下部の2つの建物を長い廊下で結んだユニークな建物で、周囲も自然林に囲まれている。このセンターは、1967年に催されたカナダの100年祭の一つの事業として設立されたもので、建築設計は日系2世の方が、展示設計はカナダ在住の日本人が担当したということであり、サンフランシスコのエキスポラトリウムの展示を参考に設計された参加・体験型の科学館である。



全科協北米科学系博物館視察研修団一行

当日は、アボット館長の説明のあと、職員の間本氏などの案内を受けた。アボット館長の説明によると、カナダでは科学者と技術者を必要とし、その養成に力を入れているが、教育制度の改革など難しい面がある。この科学センターでは子供たちに実験機器や装置を自ら操作・体験させることによって科学に対する興味と関心を抱かせる。このことは、いずれ科学教育に大きな影響を与えることと信じて、館の運営に努力している。その1つとして、入館者の年齢層を広げるため、展示説明を最少限にするか、展示によっては全く説明をしていない。説明することによる年齢層の特定レベルへの固定を防ぐためである、と強調していた。

標本は、常時800点を展示し、すべて自作で、希望があれば販売もしている。職員は330人で、このうち90人は学生などの非常勤である。入館者は年間100万人で、中には1年に30回以上も見学に来る人もいるという。年間予算2,000万カナダドルで、うち1,600万ドルがオンタリオ州政府の補助である。

教育普及活動は同センターが作成した年間の教育計画を、各学校がスケジュールに合わせてカリキュラムに取り入れて団体利用している。

展示品はエキスポラトリウムと同じようなものが多いが、展示は比較的整然となされている。ここでの特徴は、健康や生命に関する展示にも力を入れていることである。例えばフーズコーナーには、多数の献立見本から自分の好みのメニューを選び、カードをカロリー計算の穴に差し込むと、カロリーから塩分・糖分などまで計算され、適当か否かの診断がなされるシステムが展示されていた。献立見本は日本の商品を使い、最近開発し展示したところ、好評を得ているとのことである。また生命に関するコーナーでは、人体模型や胎児の成長過程の実物標本や避妊について音声なしのビデオテープによる画像解説など、人体の構造や生命に関する展示にも力を入れている。

サイエンス・サーカスは世界一の規模を誇るもので、標本を木製の専用パッケージに収納してトラックで移動する。年3回は実施しており、1983年には日本でも実施した。来年6月にはモスクワを予定しているとのことで大変力を入れているようである。

ボランティアは、特別展などのほかは採用しておらず、アルバイトを採用しているとのことである。関本氏などの話によると、カナダでは卒後の進路決定に学業成績と併せて、在学中の実社会での経験が高く評価されるため高校生になるとほとんどの生徒がアルバイトをしている。このような国柄から、この館でもサイエンス・ショップなどに高校生の実習生を受け入れている。

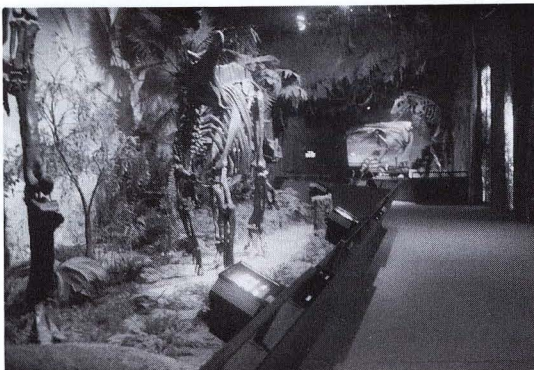
王立オンタリオ博物館

トロント市内にあるカナダ最大の総合博物館で、中でも動物学・地学・鉱物学の分野の標本は世界有数のコレクションと言われている。建物は3層からなり、1階にアジアをテーマとして、アフガニスタンから日本までの美術・工芸品を展示している。2階は、恐竜・哺乳類・爬虫類・植物・鉱物などの展示、3階は、地中海世界の美術・工芸・民俗などで、エジプトとメソポタミア東部、地中海と沿岸諸国、ローマ・ビザンチン帝国などの古代から中世の美術、工芸品、民俗資料などの展示で、全体としては、自然史・民俗・美術系の総合博物館である。爬虫類のジオラマ風生態展示や、哺乳動物の大ジオラマなどはダイナミックで見ごたえのあるものであった。また、コウモリの洞窟は、水の音、コウモリの飛び回る様子など鍾乳石を模して洞窟を再現し、洞窟探検の雰囲気を出している。恐竜はタルボサウルス・モササウルス・プレシオサウルスなどの全身骨格などがダイナミックに展示されている。

私たちが訪問したとき、小学生と高校生のグループがそれぞれ先生に引率されスクールバスで訪れた。高校生のグループは各自木製の小さな折たたみ椅子を持参し、3階の民俗関係のコーナーに集まって勉強をはじめていたのが印象的であった。

市内視察など

街の様子や名所、施設などを見学することは、博物館を側面から理解する一つの手段でもあり、博物館視察の



王立オンタリオ博物館 古生物展示室



訪問館での質疑応答

合間を利用して、全員やグループで好奇心を旺盛にし、かつ精力的に見学した。また食事やショッピングも大きな楽しみの1つである。苦労しながらも、昼は経済的に現地の人にまじりセルフサービスの店で、夜は少しきばって、ステーキやシーフード、たまに日本酒でサシミ、天ぷらなどで楽しんだ。夕食はきまって、博物館の印象談から始まり、わが国の博物館のあり方へと話が発展する。ホテルに帰って、再びあちこちの部屋で議論再開といった様子で、これらを通じてお互いの交流を深めることができた。

最後の日は、サンフランシスコのレストラン「マクスウェル」で反省会を兼ねて全員で夕食会を開いた。

日程・コース

今回は、サンフランシスコを除き、どの都市も寒さが厳しかった。朝夕の街の散策などは、身を切られるような寒さを経験した。しかし視察はバスで移動し、建物の中で過ごすことが多く、さほど苦にならなかった。むしろこの季節ならではの、おとぎの国か童話の世界のようなクリスマス風景に出会えたことが心に残っている。

今回の、東から西に移動し、最後に温暖なサンフランシスコに滞在するコースはとてもよかったと思う。まだ視察都市を精選して、各都市に数日間滞在できたことは気分的にも実際の行動にも余裕がもてた。期間中、病気や事故がなかったのは、各自が十分気をつけられたことは勿論であるが、余裕のある日程も安全な旅行の大きな要素の1つであると思う。

次のために

しめくくり、今回参加して私なりに気の付いたことを記しておくことにする。

1. 今回のように参加者が多い場合は、写真入名簿があると何かと便利ではないかと思う。また、準備や参加者との連絡などのために、出発までもう少し時間があるとありがたい。
2. 参加される方の参考のために、極めて私見ではあるが、服装や主な身の回りの持ち物などを記してみる。一般的な旅行ガイドにもあるように、この時間の北米

は屋外での寒さはかなりのもので、薄物を重ね着して適宜調節するのがうまい方法のようだ。

服装はスーツ1着に替え上衣かジャンパー1着、替えズボン1本必要。セーター又はカーディガン1着必要。Yシャツ3枚程度（ホテルのクリーニング1日できる）。下着類は、暖かい地方は別として、日本の冬に着用しているもの2組（多くて3組）に厚手のもの1組。ただし、こまめに洗濯すること（ホテルは暖房がよいので、入浴時に洗濯して朝までに十分乾く）パジャマ薄物1着、網タオル（外国のタオルは厚くて寸詰り、背中洗い不便、肌がピリッとしないと風呂に入った感じがしないと云う人は必携）、マフラー・手袋必携、スリッパ必携、靴は予備1足あると快適。お金は、参加費（旅行経費）の他に1日100ドル×日数プラスおみやげ代が1つの目安。最近カードが普及し、便利で安全であるが、団体旅行の場合共通経費などを現金で精算の場合もあるので、カードと併わせて若干の現金かトラベラーズ・チェックを用意した方がよい。2週間の旅行では、日増しに資料やおみやげなど多くなるため、身の回りの持ち物は厳選されることが賢明である。

む す び

このたびの研修は、世界的に有名な博物館を数多く視察でき、大きな成果が得られたと思う。寒い時期であったが、病気や事故など一切なく、順調に日程を消化し、さらに期間中参加者との交流を深めることができたことも収穫の1つであった。

最後にこの研修に参加する機会を与えて下さった諸澤館長に、又研修のお世話を下さった関係の方々から感謝の意を表する次第である。

参加者名簿

（順不同、敬称略）

山本 孝（団長・国立科学博物館 庶務部長）
橋口勝善（国立科学博物館 庶務課課長補佐）
池田重夫（国立科学博物館 展示課専門職員）
渡辺秀夫（横浜こども科学館 天文係）
松本喜一（電気通信科学財団 総務部長）
山岡哲郎（でんきの科学館 中部電力(株)広報室次長）
畑田健治（鹿児島県立博物館 学芸主事）
緒方国博（宮崎科学技術館 文化振興課）
細道一男（滝川市建設部技監）
後藤正邦（新潟県立自然科学館 プラネタリウム担当）
水嶋英治（科学技術館）
高橋元彦（(株)乃村工藝社 文化施設事業部）
松浦恒久（(株)乃村工藝社 文化施設事業部）
高橋育久（(株)ココロ 開発営業部次長）
高橋理一（(株)ココロ 開発営業部）
鈴木士文（(株)さいか屋 販売促進部課長）
辰巳謙道（(株)西尾製作所 取締役）
須見 隆（(株)丹青社 第三事業統括部）
野沢克昌（(株)丹青社 デザインセンター）
林 慶二（(株)丹青社 デザインセンター）
福島 徹（久光文化施設研究所）
原田貞夫（(株)芸宣 展示施設部長）
川嶋博之（(株)トータルメディア開発研究所）

参加者からの詳しいレポートを、次号以降順次掲載していく予定です。

全科協では、本年度も海外の博物館の視察研修旅行を予定しております。奮ってご参加ください。実施内容・応募要項は、改めて各館園あてにお送りいたします。

また、視察研修に適した海外の博物館に関する情報をお持ちの方は、ぜひ事務局あてにお知らせください。視察研修の企画の参考とさせていただきます。

（事務局）

全 科 協 北 から 南 から

加盟館園の企画展・特別展

○横浜こども科学博物館では、企画展「科学捜査 ドキドキたんていクラブ」を開催する。

モニタージュや指紋などを使った捜査を体験してもらうものである。

期間 平成2年1月14日（日）～2月8日（日）

また、さわって重さを確かめられる「隕石」、新しく生まれ変わった5階宇宙船長室を公開する。

展示内容等、詳しいことは ☎ 045-832-1166までお問合せください。

■東京都児童会館休館のお知らせ

東京都児童会館の本館は、改修工事のため平成2年3月末まで休館している。また、日曜こども劇場も3月末まで休演する。なお電話による「こども相談」は休館中も受け付けているが、工事の騒音等で中止することもあるので、ご了承ください。



黒部市吉田科学館

1. 施設の概要

昭和57年、58年に吉田工業㈱より青少年の健全育成に
と多額の基金が贈られたのを機に、昭和59年に建設基本
構想を策定。昭和61年6月19日に開館いたしました。

「楽しみながら自然と科学技術に対する関心と理解を深
める場」「自然の神秘に感動し、創造の喜びを知る場」
として活用されています。

開館時間 午前9時～午後4時30分

休 館 日 毎週月曜日 祝日の翌日

入 館 料 年未年始(12月29日～1月3日)

大人 200 円 小・中・高校生 100 円

団体20名以上は2割引

建物はプラネタリウムドームを中心に、周辺に各部屋
が宇宙ステーションを模した形で配置されたユニークな
建物です。

敷地面積 10,388.29 ㎡

延床面積 1,804.23 ㎡

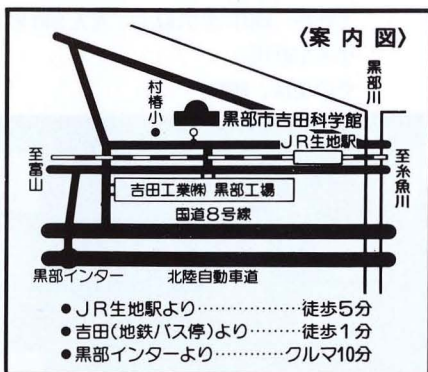
建築構造 鉄筋コンクリート平屋建て

2. 展示その他

エントランスホールに天文関係の展示を少数備えてい
る。

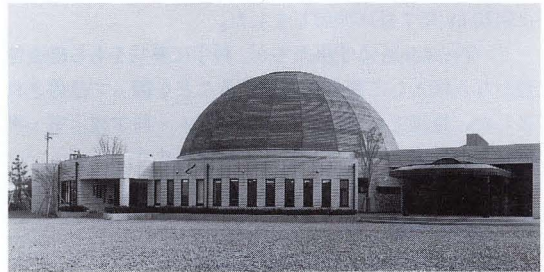
また、スタディオロボット、宇宙体重計など数種展示さ
れている。

展示の他に、情報処理室(パーソナルコンピュータ15
台、学習ソフトを十種常備。自由に利用できる。)や、実
験実習室があり、多彩な活動が行えます。



〒938 富山県黒部市吉田 574-6

TEL (0765) 57-0610 FAX (0765) 57-0630



館 正 面



情 報 処 理 室

3. プラネタリウム

ドーム直径20m、収容人員240名。コンピュータ制御
によるオート投映が可能なプラネタリウムです。投映は、
一般投映・学習投映・幼児投映を行っており、美しい映
像と音響の組合せにより、壮大な宇宙を演出しています。

また、前方にステージが設けられており、多目的ホー
ルとして講演会・音楽会などを開催しております。

投映時間 平 日 10:00 14:00

土・日・祝日 10:00 13:30 15:00

4. 教育普及活動

プラネタリウムドームの周辺には、エントランスホー
ル(展示場)・実験工作室・情報処理室・研修室・会議
室などがあります。

これらの施設を利用して、特別展・講演会や、科学実
験・工作・パソコン・天文などの各種教室を定期的に関
催しています。



高崎市少年科学館

TAKASAKI MUNICIPAL SCIENCE HALL FOR CHILDREN

〒370 群馬県高崎市末広町23-1

TEL 0273 (25) 0681

高崎市少年科学館は高崎市総合文化センター内の一画に昭和59年7月に開館しました。

21世紀に生きる子供たちが、科学に興味をもち創造性豊かな人間として健全に育成することを願って設置されました。施設としてはプラネタリウム・科学展示室・実験室・創作室・パソコン室などがあります。

◎ 施設の概要

プラネタリウム ドーム直径 21 m

固定席 315 (車椅子 6)

科学展示室 768 m² 創作室 84 m²

実験室 84 m² 準備室 28 m²

◎ 展示の概要

科学展示は子供たちが科学技術の原理原則を学べる展示がされ、一部を除いて自分たちで自由に動かし手にとって使えるようになっています。

また、科学的な立場から豊かな人間形成を行うための社会教育施設として多くの人たちに利用されています。

◎ プラネタリウム関連事業

プラネタリウムは学習投映・一般投映を主体として広大な宇宙の夢を育てるための効果的な天文教育を行っています。

学習投映は幼稚園・保育所・学校等における学習指導に位置づけられます。内容は学習指導要領にもとづき、教師が作成した指導案による投映で、そのため、学校ごとに内容は異なり、個性のある指導が行われています。

一般投映は2ヶ月ごとに番組の入れ替えを行っています。季節の星空を見ながら番組のテーマに入っていくドラマ形式で約40分の投映です。番組制作は、シナリオから作画、録音、プログラミングまで、すべて自作を心がけています。

また、特別投映・星と音楽の夕べなど、少しでも天文に興味を持ってもらう番組も行っています。

◎ 科学普及事業

子供向けの講座(工作教室・パソコン教室など)を定期的に開催し製作活動を通じた学習を行っています。

また、自主的な学習を行うクラブ(高崎少年少女発明クラブ・星の会など)も活動しています。

工作教室は子供たちに創作活動を通じて科学的技術的

経験をもたせるため、開館以来各種工作教室を毎月1回のペースで開設しています。模型飛行機・日時計・地球儀あるいは電気工作・化学工作や時には伝統的木工玩具・各種風など最近少なくなった手作りの良さや日常生活に役立つ技能面の体験をねらって、創作室・実験室を活用しています。

パソコン教室は小学校4年生から中学生の初心者および親子を対象にパソコンの基礎を説明し、実際にパソコンに打ち込んで、親しみながら理解してもらいます。

星の会は、毎月天文教室では、少しもの足りない人などで結成されました。本年度で4年目となり、会員は約70名、毎月の観測会や例会を中心に活動しています。

高崎少年少女発明クラブは、少年少女に科学的な興味関心を追求できる場を提供し、家庭や学校の制約をはなれて、工作する喜びを学び、生活態度を育成するとともに創造性豊かな人間形成をはかる事を目的として開館と同時に設立しました。小学校4年生から中学校2年生を対象として毎月2回活動しています。

当館は、地域に根ざした科学教育の充実のため努力しています。

◎ 開館時間 AM9:00~PM5:00

休館日 プラネタリウムにつき 月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の時はその翌日)及び年末年始

その他は、年末年始のみ休館日

入館料 プラネタリウムのみ 大人300円 小人150円 団体20人以上(大人240円 小人150円)

その他は、無料



伊勢原市立子ども科学館

〒 259-11 伊勢原市田中 76

TEL 0463 (92) 3600 FAX 0463 (92) 3601

伊勢原市立子ども科学館は、身近な科学情報を提供する情報センターとして、また、21世紀を担う子供たちが豊かな創造性を育む場として建設されたものです。

当館は、全国でも数少ない図書館との複合施設として平成元年4月に開館しました。

以来、体験活動の重視という観点から、来館者が自由に操作することのできる参加型の展示をしています。

遊びながら試しながら、作りながら学ぶことのできる環境づくりをめざしています。

◎ 施設の概要

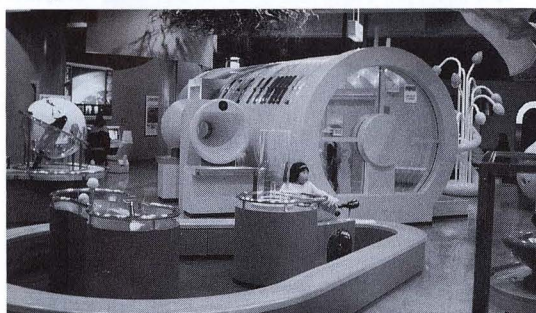
- 敷地面積 4,447 ㎡
- 建物延床面積 8,036.16 ㎡のうち 3,045.29 ㎡
(図書館と併設)
- 建築構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上4階建
ペントハウス1階

◎ 展示の概要

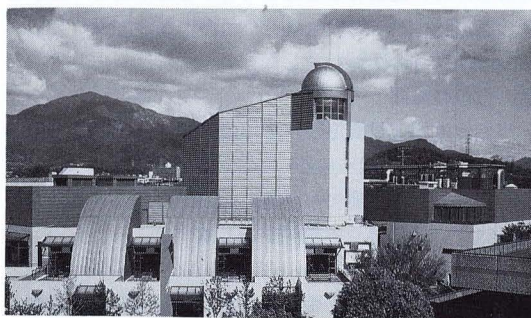
当館の展示は、生命の科学を中心テーマに、「地球は生きている」「いろいろなことば」「いきものの進化」「いのちのつながり」「小さな小さな世界」「からだのはたらき」の6つのコーナーで構成されています。

電子顕微鏡でミクロの世界を見たり、気象衛星の画像を見たり、コンピュータグラフィックスに挑戦したり、そのほか、見て、触って、自らはたらきかけることのできる楽しい展示がたくさん準備されています。

- 展示品の総数 93 点
- 展示室面積 997.54 ㎡



展 示 室



◎ プラネタリウム

当館のプラネタリウムは、地球から見た天体の動きに加えて、他の惑星から見た天体の動きも投影できる最新社のものです。また、ドームいっぱいに臨場感あふれる映像も映し出すアストロビジョン(全天周映画)も備えております。

平日は市内の小・中学校を対象とした学習投影を行っています。

- ・本体—プラネタリウムGSS—II
- ・ドーム—直径18m・傾斜ドーム
- ・座席数—139席
- ・アストロビジョン映写機(35ミリフィルム)
- ・全席にレスポンスアナライザー(学習応答分析機)が取り付けられています。

◎ 天体観測室

- ・ドーム—直径6m
- ・20cmクーデ式天体望遠鏡

※クーデ式天体望遠鏡は、どの方向の天体をとらえても、接眼部の位置が変わらず、車いすに乗った人にも天体観察ができます。

◎ 教育普及活動

子どもたちに科学的なものの見方や考え方、扱い方など、「科学の方法」を理解体得してもらうため、科学工作教室、実験教室、パソコン教室等を定期的に計画しています。教室は、親子を対象とした内容が多く、親子のふれあいの場としても人気を博しています。

また、学校教育施設としての利用も多く、「移動教室」という名称で、館の施設・設備を活用した教育普及活動が展開されています。

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館は、伊那谷の自然と文化についての理解を深め、菱田春草をはじめとする郷土出身の俊才たちの芸術に触れて感性を養うための市民の施設として、平成元年10月に開館しました。

● 施設の概要

当館は本館と付属施設（柳田國男館、日夏耿之介記念館）からなり、自然・人文・美術分野をあわせもつ総合博物館です。自然分野では伊那谷の自然を紹介する自然展示室とプラネタリウム施設があります。

<本 館>

南アルプスの峰々を型どった屋根をもつ白亜の建物。

- ・延床面積 4,938 ㎡
(自然展示室 283 ㎡ プラネタリウム室 179 ㎡)
- ・建築構造 地上2階、鉄筋コンクリート造

<柳田國男館>

柳田家より寄贈を受け、東京成城より移築。

- ・延床面積 245 ㎡ ・建築構造 木造2階建

<日夏耿之介記念館>

日夏耿之介が晩年住んだ家を復元。

- ・延床面積 63 ㎡ ・建築構造 木造平屋造

● 自然展示の概要

伊那谷の動植物や伊那谷の成り立ちをジオラマ等を用いて、わかりやすく展示しています。前者では「伊那谷の春」をジオラマで再現しています。また時代順に「伊那谷の起源」「恐竜時代の伊那谷」「古代ザメの泳ぐ富草の海」「赤石山脈の屈曲」を展示し、地質立体模型にて「伊那谷の地質」を紹介しています。

特色ある展示資料として中国やモンゴルから産した恐竜化石のレプリカ（チンタオサウルス、タルボサウルス等）古代ザメ、（カルカロドン・メガロドン）の頭部復元模型、伊那谷を代表する岩石のスツール8点等があります。また展示資料を交換することによって伊那谷の昆虫を広く紹介していく予定です。

〒395 飯田市追手町2丁目 655

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252

● プラネタリウム投影

土日曜を中心に、一般観覧者を対象としてストーリー性のある番組を投影しています。投影は約1時間で生解説による天文話題と、自動演出装置による番組で構成されています。将来的には小学生を対象として学習投影も行う予定です。

- ・直径 12m
- ・座席数 120席
- ・本機 ミノルタMX-10 自動演出装置付き
- ・補助投影機 X-Y投影機、レーザー投影機他

● 教育普及活動

自然分野では年1回の企画展示と年数回の講演会、講座を行っています。竣工以来、一昨年度に「雑木林展」昨年度人文分野と協力して開館記念「風越山展」を行いました。両者とも地元の研究者と学芸員からなる展示研究委員会で企画を練り、手作りの展示となりました。今年度は「伊那谷の昆虫展」を計画しております。

● 伊那谷自然史資料センター

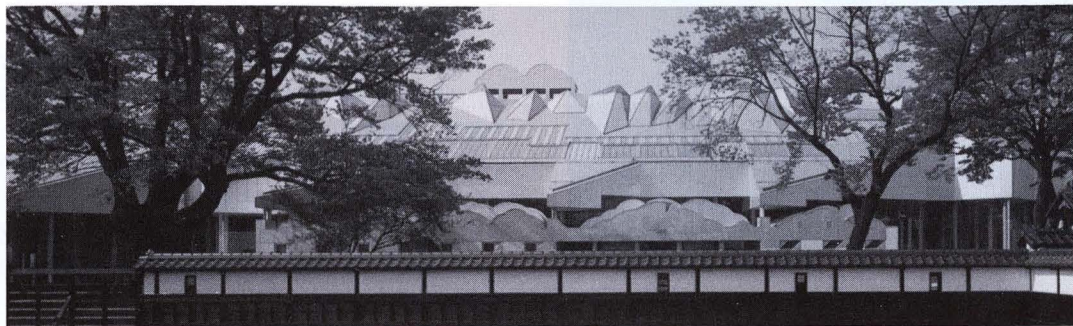
伊那谷に関する自然史資料・情報を収集・保管し、センターとなるよう準備を進めています。とくに哺乳類等の生態学的資料や中央構造線や伊那谷活断層系に関する資料、南アルプスの成り立ちを示す微化石資料等を充実していきたいと考えています。

● 伊那谷自然友の会

伊那谷自然友の会は「伊那谷をまるごと博物館に」するために、美術博物館開館に先立ち昭和60年に発足した支援団体です。年6回の会報、ガイドブックの発行、月一回の自然講座、自然観察会等を行い、また企画展示、講座などの博物館活動を側面から援助しています。

● 出版物（今年発行予定も含む）

年4回発行の「美博だより」、概要、年報、研究報告、ガイドブック「風越山」他



熊本市立熊本博物館

KUMAMOTO CITY MUSEUM

1. 施設の概要

当館は、昭和27年に熊本城内にて発足し、現在では本館、分館、分室の施設がある。

昭和53年に新館が開館し、統括、開放、立脚、密着という四つの基本理念とその構想に基づき、自然科学部門、人文科学部門に理工科学部門を新設して総合博物館としての機能を備えている。

〔本館〕 敷地 14,000㎡ 建物 6,100㎡

構造 鉄筋コンクリート2階、地下1階

〔分館〕 熊本城天守閣内 1階～3階

〔分室〕 敷地 7,000㎡ 建物 3,500㎡

構造 鉄筋コンクリート2階（一部木造）

2. 展示内容（熊本城天守閣分館、古京町分室は省略）

〔本館〕

1階：自然科学部門・理工科学部門

地質—地質年代にそって、岩石・化石等を展示。東洋象の全身復元模型がある。

生物—自然の宝庫熊本を以下の五地区に分けて展示。
五家荘：標高1500m地点の自然そのままの状態を再現し、各種動植物を配置したジオラマ。

阿蘇：鳥類・哺乳類等、北方系・大陸遺存植物など。

有明：ムツゴロウなど干潟の特産魚類、貝のなかま。

天草：海鳥類、魚類、海岸動物、海浜植物など。

江津湖：国指定天然記念物のスイゼンジノリ、水鳥類、淡水魚、トンボ類など。

理工1—エネルギーをテーマに展示。主なものとして
シデロスタット（太陽観測装置）など。

理工2—動力源の原理と発達、伝達や変換を展示。

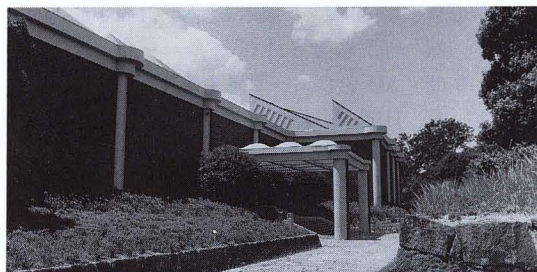
各種エンジンやワットの蒸気機関実物大復元模型など。

屋外展示—SL、プロペラ機、ヘリコプターなどを自



〒860 熊本市古京町3-2

TEL 096-324-3500



由に乗れるような状態で展示。

2階：人文科学部門

歴史・考古—郷土における人びとの営みの歴史を時系列に展示。縄文時代の土器・石器土偶、弥生時代の大型甕棺、重要文化財の才園古墳出土副葬品一括と東陵永興倚像西南戦争錦絵など。

民俗—今に伝わる生活の知恵として、平野・山・海の生業、村落と家族の社会など。

地階：プラネタリウム（直径16m、収容人数218名）

定例番組（一般用の四季毎、学習用、幼児用）

特別番組（クリスマスファンタジー、七夕祭、星と音楽の夕べなど）ともに自作上演。

3. 普及活動

①特別展—常設展示のほかに毎年1回の特別展を実施。毎年定例の展示会として、肥後六名花展、肥後チャボ展、山野草展、市・県科学展を開催。

②教室・講座—子供対象の天文教室、昆虫教室、大人対象の考古学講座、歴史講座、民俗講座など各月に1回実施。

③博物館友の会—昭和44年7月発足以来、毎月1～2回講座・見学会などを実施。

④その他

星を見る会—毎月1回、SPコンサート—毎月1回。

4. その他

・入館料 大人100円、中学生以下50円（団体割引あり）

・プラネタリウム 大人100円、中学生以下50円（団体割引あり）

・休館 毎週月曜日、祝日（但、5月5日及び11月3日は開館）、年末年始、保守点検期間（7月11日～15日）

・開館時間 9:00～17:00（但、入館は16:30まで）

地質調査所地質標本館

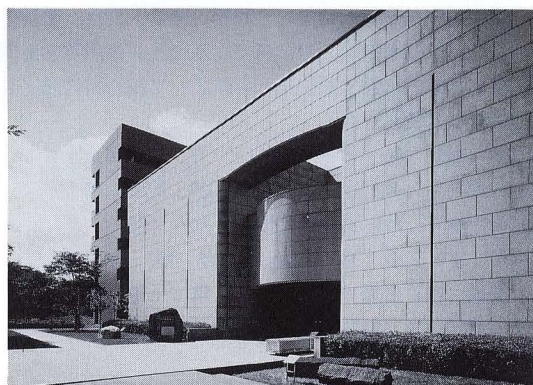
GEOLOGICAL MUSEUM, GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

建物形式 鉄筋コンクリート二階建て（一部三階建て）
敷 地 工業技術院筑波研究センターの一部
建物床面積 3,700 m² 展示室面積 1,500 m²
開 館 昭和55年8月19日
開館時間 AM 9:30～PM 4:30
休 館 日 日曜、祝日、毎月第2・第4土曜、12月28日
～1月3日
入 館 料 無料（団体は予約が必要）

〒305 茨城県つくば市1-1-3

TEL 0298 (54) 3750

FAX 0298 (54) 3533



1. 施設の概要

地質調査所が筑波研究学園都市へ移転するに際して、地質調査所の研究活動の紹介と地球科学の普及を行うため、7年以上の歳月と約20億円の費用を投じて、地質標本館を建設しました。

開館以来、多数の見学者があり、開館9年目の平成元年8月には、総入館者数が30万人を突破しました。

建物は、淡い紅色の韓国産花崗岩で貼りめぐらされ、レンガタイル貼りの研究所が林立するなかで、異色の存在となっています。

2. 展示概要

地質調査所には、日本列島や世界の各地から収集された岩石・鉱物・化石の標本が10万点近く登録されていますが、そのうちの代表的な標本約2,000点を館内に展示し、そのほか、大型の模型、ジオラマ、パネル、オートスライドなどにより、地質現象と私たちの生活との関わりを分かりやすく解説しています。

(1) 玄関ホール

日本列島付近で発生した地震源を示す多数の球体が垂れ下がり、真下には、地球の内部構造を示す地球儀が展示しています。ジュラ紀層の褶曲模型は、1億年以上も前の激しい地殻変動を物語っています。

(2) 第1展示室＜地球の歴史と郷土の地質＞

地球の誕生から現在にいたる歴史を、動物化石・植物化石・岩石などの変遷によって、タイムトンネル風に辿ります。地球最古の片麻岩と北海道産の巨大なアンモナイトをはじめ、中央にある日本列島の地質立体模型は、日本で最大級のものでしょう。「生きている化石」のコーナーでは、三葉虫とカブトガニ、アンモナイトとオーム貝の生態をジオラマで示し、北海道産デスモスチルスの全身骨格も展示しています。他に関東平野の地下断面、成田層の化石床、学園都市の地盤など、つくばに関連した「郷土の地質」コーナーを設けています。

(3) 第2展示室＜生活と鉱物資源＞

国内外の金属・非金属・石炭・石油などに関する情報が、押しボタン式パネルによって示しています。太平洋の海底地形模型と深海底に堆積してできたマンガン団塊の展示がこの部屋の見ものです。

(4) 第3展示室＜生活と火山・地熱・地震＞

日本を代表する2つの火山、富士山と箱根山の断面を見せて動く模型。地熱発電の仕組みや地震予知の方法などの解説もあります。プレートテクトニクスの理論を、マルチスクリーンを使って紹介します。最後に、「結のしくみ」と「花崗岩の解剖」のコーナーがあります。

(5) 第4展示室＜岩石・鉱物・化石の分類展示＞

約1,000点の標本が、学問的な分類体系に従って展示しており、当館の心臓部ともいべき部屋です。新着標本のケースには、ニュース性のある標本の展示を行っています。

3. 教育普及活動

文部省中央研修や茨城県教員研修として、当館の見学が組み込まれ、その他、子供たちに対する普及講演も随時実施しています。毎年8月後半には夏休み相談日を設けて、専門の研究者たちが宿題のお手伝いをします。

4. 出版物

当館の展示物に関する解説記事を、地質調査所編集の「地質ニュース」に随時掲載し、希望者にはその別刷りを配布します。また、地質調査所の出版物（各種の地質図など）を置いて、購入の便宜を計っています。

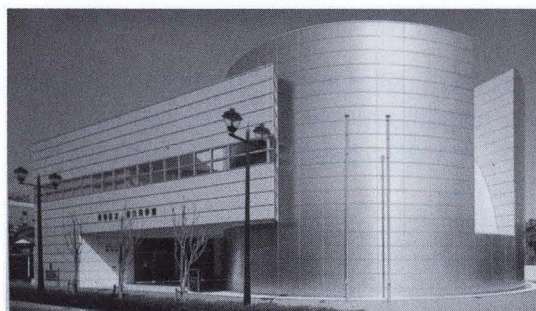
板橋区立教育科学館

Itabashi Science and Education Center

特別区立のものとしては有数の、プラネタリウムと科学展示とを備え持つ教育施設として、昭和63年9月20日にオープンいたしました。教育センターの役割も担い、科学教育の充実と青少年の健全育成を目指し、事業運営を行っております。

〒174 東京都板橋区常盤台四丁目14-1

TEL (03) 559-6561 FAX (03) 559-6000



◎ 施設の概要

建物形式 地下2階，地上2階，鉄骨鉄筋コンクリート造

敷地面積 3101.99 m²

延床面積 4990.00 m² (区民センター併設)

展示室面積 1047.7 m²

プラネタリウム面積 379.9 m²

地下一階 科学展示室

一 階 オリエンテーションホール・プラネタリウム

二 階 科学実験室・創作室・教材制作室・資料室・パソコン室・研修室

◎ 展示の概要

エネルギー・交通・通信・災害・健康という5つのテーマに分かれ、それぞれ体験装置やモニター画面によって科学展示が構成されており、アマチュア無線・パソコン通信の出来る通信実験室や科学実験の実演が行われるみんなの実験室があります。

〔エネルギーの科学〕

人類とエネルギーの歴史について映像で紹介し、光エネルギーやエネルギーの変換、静電光等の展示を行っております。

〔交通の科学〕

浮上交通の仕組みやジャイロスコープ、飛行体験装置等で未来の交通や交通の重要な役割について紹介しております。



展 示 室

〔通信の科学〕

通信の歴史や通信のいろいろな方法・手段について、パラボラアンテナやドップラー効果、衛星通信などをテーマとした展示物を設置しております。

〔災害の科学〕

地球の構造や大陸の移動についての映像を流すとともに、地震体験装置で地震の横ゆれの体験をしていただき災害から身を守る方法を紹介します。

〔健康の科学〕

生活環境について、音と気温の面から生活の中の快・不快を紹介します。また、日常の食事の栄養の偏りをシミュレーターでアドバイスします。

◎ 天文施設

プラネタリウムの投影機は、五藤光学社製GMⅡスペースを備えており、マルチスライドなど各種補助投影機やアストロビジョン(70mm)、レーザーグラフィック投影システムといった周辺装置も完備しております。これらの機器はコンピュータ制御により、自動投影が可能です。ドームの直径は18m、座席は一方向配列で210席あります。

◎ 科学普及活動

一般を対象としたものとしては、科学講演会・映画会・科学教室・パソコン教室・天文教室・創作教室・アマチュア無線教室等を随時開講しております。

また、小・中学生を対象としたものでは、期間を半年とした各種クラブ(科学・天文・創作・パソコン・放送)を行っており、人気を博しております。

平日は、区立の小・中学校の移動教室に主に利用されております。

 全 科 協 北 から 南 から

■日本産業模型協会が発足

平成元年11月、大阪で日本産業模型協会の設立総会が開かれた。建築・土木の分野だけでなく、近年の各地の博覧会では展示物、実験模型などにも産業模型の技術が使われ、科学教育・文化財保護の分野でも注目されつつある。

同協会は、技術者集団として会員相互の協調連携を強め、模型製作技術に関する情報交換、関係業会団体との交流、模型業界の地位向上、技術者の養成などの活動を展開する。

協会会長には、全科協維持会員の㈱ヤマネ・阿澄昌夫取締役社長が選ばれ、科学館・博物館の展示を設計施工する会社も数多く加盟している。今後、博物館施設の展示開発に協会の活動が貢献されることを期待したい。

問い合わせ先：日本産業模型協会事務局

〒663 豊中市庄内西町4-3-11 ㈱ヤマネ内

加盟館園の出版物

- 鳥取県立博物館研究報告 第26号 1989.3
- 郷土と博物館 第34巻 第2号 1989.3
- 郷土と博物館 第35巻 第1号 1989.9
- 鳥取県立博物館協会会報 No.38 1988.9
- 鳥取県立博物館協会会報 No.39 1989.3
- 鳥取県立博物館協会会報 No.40 1989.9
- 馬の博物館研究紀要 第2号 1989.12
- 馬の博物館 調査研究報告 1989.12

■秋田県立博物館では、「秋田県立博物館 総合案内」をこの度刊行し、販売している。この総合案内は、日本生命財団の助成により刊行された。博物館の常設展示を写真と解説文で紹介したものである。B5判・87ページで、販売価格は800円である。

入館者に対して受付で販売しているほか、郵送にも応じている。内容や入手方法等の詳細は、下記宛へお問い合わせください。

☎ 010-01 秋田市金足嶋崎字後山52番地

秋田県博物館等連絡協議会事務局

(県立博物館総務課内)

☎ 0188-73-4121

■国立科学博物館のポスター

国立科学博物館では、このたびポスターを制作し販売する。科学博物館を広く紹介し、また来館の記念としてもらおうというものである。

今回制作したのは2種である。内容は、館全体をイメ

ージさせるものと、人気の展示の一つである、恐竜の世界をモチーフにしたものである。販売価格は1部400円で73mm×51mm、タテ型、館内の売店で販売する。

■倉敷市立自然史博物館の出版物

『高梁川の淡水魚』(新刊)

平成元年11月に行われた、第6回特別展「高梁川の淡水魚」の展示解説。高梁川は全国でも淡水魚の種類が多いといわれる。その高梁川系に棲息する淡水魚の種類・分布・生態や人間とのかかわりなどを紹介し、淡水魚をみなおそうとするもの。B5判 44頁
〔既刊〕『展示解説1』 300円

『鶴形山の自然』 300円

『高梁川流域のおいたち』 150円(送料175円)

『岡山のチョウ』 300円

『岡山県の帰化植物』 300円

『倉敷の海辺のいきもの』 300円

『自然史博物館研究報告1』 500円

『自然史博物館研究報告2』 300円

『自然史博物館研究報告3』 400円

『自然史博物館研究報告4』 400円

『備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石』

5600円(送料460円)

※送料は特記以外全て210円。

また、これらの出版物に加え、平成元年9月より、『自然史博物館だより』を発刊した。年数回発行で、次号は3月の予定であるが、徐々に数を増やしてゆくとのことである。現在は、関係機関等に配布のほか、希望者には受付又は郵送で渡している。

以上紹介した出版物の詳しい入手方法などは、下記へお問い合わせください。

☎ 710 倉敷市中央2-6-1

倉敷市立自然史博物館

☎ 0484-25-6037

事務局から

◇全科協ニュース編集委員会では、加盟館園の発行しているニュース、館報などの定期刊行物をもとに、編集会議で特集記事や原稿の依頼等を検討しています。お手数ですが、各館園の定期刊行物を1部全科協事務局宛てに、お送りくださるよう、お願いします。

☎ 110 台東区上野公園7-20

国立科学博物館内 全科協事務局